

News Letter

AQSiS

N° 02

2023年1月



セネガル国看護師・助産師の臨床実習の質向上プロジェクト



第1回拡大ワーキンググループ（GTE）を開催しました

7月20日に、プロジェクトの計画や進捗モニタリングを行う「第1回拡大ワーキンググループ（GTE）」を開催しました。保健社会活動省、雇用・職業訓練・実習・雇用促進省、軍事省、州医務局、州保健研修センター、私立保健人材養成校組合（COSEPS）、対象州（ダカール州、ティエス州）の関係者など計23名が参加しました。プロジェクトのワークプラン、3年間の計画、プロジェクト目標に対して設定する指標、今後作成する行政文書・教材について協議を行い、概ね参加者からの合意が得られました。



第1回の開会にあたり挨拶を述べる人材局長（中央）。サポートする研修課課長（左）と保健行政アドバイザー（右）

冒頭では、5月24・25日に実施した「キックオフおよび課題抽出ワークショップ」で協議された課題を改めて確認したうえで、プロジェクトで作成・改訂すべき行政文書・教材について協議しました。協議の結果、右の文書を作成し、課題の解決を目指すことで合意しました。

さらに、プロジェクトの3年間の計画についても関係者の承認が得られました。8月以降、行政文書・教材の草案作成に関するワークショップを実施し、その後パイロットフェーズとして、対象州の2州から選定した養成校と保健医療施設に対して、研修、マニュアルに沿った両者間の調整、臨地実習の実施、スーパービジョン、評価と、実習に必要な一連の活動をテストします。その結果を踏まえて、2023年月中旬に関連文書を最終化し、セネガル保健社会活動省の正式な文書となるよう承認手続きを行います。承認された文書は2023年下旬から2024年下旬の期間で実施する拡張フェーズで、対象州の全ての養成校と保健医療施設で使用を開始します。この過程で得られたグッドプラクティスを、対象州以外の地域や他の仏語圏アフリカにも広げていく予定です。

対象となる11の行政文書・教材リスト

I. 行政文書

- | | |
|---|--|
| 1 | 看護師・助産師臨地実習の質の改善のための協議枠組みオリエンテーションガイドライン
・スーパービジョンシート
・自己評価グリッド |
| 2 | 看護師・助産師の臨地実習管理のためのプロセスおよび手順マニュアル
・年間計画
・医療施設と養成校の実習指導綱領
・事前踏査依頼レターとグリッド
・実習合意書のひな型 |

II. 教材

- | | |
|----|-----------------------|
| 3 | 実習冊子（看護師） |
| 4 | 実習冊子（助産師） |
| 5 | 実習ポートフォリオ（看護師） |
| 6 | 実習ポートフォリオ（助産師） |
| 7 | 看護記録 |
| 8 | 助産師用症例記録 |
| 9 | 実習評価グリッド（看護師） |
| 10 | 実習評価グリッド（助産師） |
| 11 | 実習生向け医療施設のオリエンテーション冊子 |



第1回拡大ワーキンググループ終了後の集合写真

保健社会活動省人材局研修課課長へのインタビュー

プロジェクトにどのようなことを期待し、これまでの活動をどう評価しますか。

保健社会活動省にとって、看護助産学生の臨地実習改善に向けた本プロジェクトは非常に重要です。そのために、プロジェクトの枠組みに含まれる養成校、保健医療施設、大学、関係省庁などすべての関係者の参加が必要であり、協働してプロジェクトを進めていきたいと考えています。さらに、行政文書・教材の統一というのもプロジェクトに期待する成果の一つです。これまで臨地実習の現場においては、各養成校および保健医療施設が独自の文書を使用し、独自の方法で学生の評価を行ってきました。行政文書・教材が統一されれば、臨地実習の質の改善につながります。臨地実習の質改善は、十分な訓練を受けた看護師・助産師、つまり質の高い保健人材の育成につながり、セネガルの人々に対する適切な保健サービスあるいはケアの提供を可能にします。これまで3回の行政文書・教材の草案作成ワークショップを実施し、第4回ワークショップや、パイロットフェーズ開始前の草案最終化ワークショップも控えています。研修課で多くの活動を実施する傍らで、AQSiSとともにこれらの活動を進めてきたことに満足しています。

行政文書・教材の草案作成から最終化までのプロセスの振り返りと感想を教えてください。

人材局研修課職員は、保健社会活動省を代表して、当初より、関係する養成校の教員やリソースパーソン、関連部局などと協議を重ねながら、文書作成に関わってきました。保健医療施設や対象2州の州医務局からの支援もあり、関係者全員が協働して多くの文書の作成を行ってきました。ワークショップでは、行政文書・教材を見直し、不足している文書については、新しく作成しました。これらの文書作成・改訂ができたことは大きな成果であり、携わったすべての関係者に心から感謝しています。

作成した行政文書・教材を使って行われるパイロットフェーズへの期待や意気込みを教えてください。

パイロットフェーズでは、作成された行政文書・教材を、選定された保健医療施設においてテスト運用



ダム・クリバリー

保健社会活動省人材局研修課課長
(ナショナルフォーカルポイント)

を行い、臨地実習の質を向上させるといった目的の達成度合いを確認していきます。これから設置される協議枠組みを活用しながら、作成された行政文書・教材が効果的に使用されているか、定期的に確認するためのモニタリングの仕組みづくりに取り組んでいきます。

全国や州における協議枠組みづくりも今後本格化していきますが、どのような効果を期待していますか？

まず、臨地実習の調整の改善があげられます。現在、養成校は時に学生を病院の管理部門を通さずに直接診療科に送ることがあり、保健医療施設内での調整が最大の課題となっています。協議枠組みを設けることで、州レベルの臨地実習の計画や実施について明確に把握できるようになります。州レベルの協議枠組みの設置は、州内の各保健区での臨地実習の計画や実施について明確に把握するのを可能にします。保健医療施設レベルでは、受入れキャパシティを超えた学生が送られる問題があり、協議枠組みを設けることで、少なくともこのような問題を回避できると考えています。

ご自身を特徴づけるスローガンを教えてください。

皆で一丸となって、看護助産学生の臨地実習改善課題に向き合っていきましょう、ということのスローガンとして掲げたいと思います。

2022年7月～2022年12月の活動進捗

1. 統合同調整委員会 (COPiL)

9月7日に、プロジェクトダイレクターである事務次官司会のもと、統合同調整委員会 (COPiL) が実施されました。COPiLでは、セネガルにおける日本の保健セクター支援に関する関係者が集まり、各プロジェクトの進捗報告や意思決定を行います。プロジェクトでは、7月20日に実施した拡大ワーキンググループ (GTE) で仮承認された4点 (①ワークプラン、②ロードマップ、③プロジェクト目標に対して設定する指標、④プロジェクトで作成予定の行政文書・教材リスト) をフォーカルポイント (研修課課長) より報告しました。また、母子保健サービス改善プロジェクトフェーズ3 (PRESSMN3) との連携を強化していくことが確認されました。



プロジェクトの進捗を報告する人材局研修課長

2. 行政文書・教材の草案作成ワークショップの開催（第1回・第2回・第3回）

7月に実施した拡大ワーキンググループ（GTE）で合意した活動計画に沿って、9～12月に「行政文書・教材の草案作成ワークショップ」を開催しました。臨地実習に関わる省庁、看護師・助産師の養成校、保健医療施設関係者など約30人が集まり、計11種類におよぶ行政文書・教材の草案作成を行いました。全国的な統一を目指すため既存の文書に加え、下表のとおり新たに3種類の文書を作成しました。

文書名	内容
看護師・助産師臨地実習の質の改善のための協議枠組みオリエンテーションガイドライン	実習の質を改善するために年一回の全国協議枠組みと半年に1回の州協議枠組みの実施方法を示したガイドライン。目的、機能、役割、スーパービジョン・モニタリング・評価メカニズム、持続のための戦略などが示されており、実習の質の改善のためのサイクルを作り出すことを可能とする。
看護師・助産師の臨地実習管理のためのプロセスおよび手順マニュアル	質の高い臨地実習を実現するため、統一した準備、調整、実施、スーパービジョンなどの方法を示したマニュアル。全ての養成校や学生を受け入れる保健医療施設が統一した方法で実習を行うことで、全ての関係者が質を担保した実習を行うことを可能とする。
実習生向け医療施設のオリエンテーション冊子	学生を受け入れる保健医療施設の情報や実習をする上での重要なルールが示されており、学生に保健医療施設のオリエンテーションをする際に使用される。学生が実習の準備をするために役立つ情報が掲載される。

9月20日から23日かけて開催された第1回ワークショップでは、冒頭で日本における臨地実習の実施方法、指導者研修、調整の仕組みなどの知見を共有しました。参加者からは、「3日間という限られた研修期間で保健医療施設の臨床指導ナースの育成をしている点は参考になる」、「看護過程を含む学生の看護記録が順序だてた思考の構築に繋がるという点が参考になる。セネガルでも、看護過程を含む学生の記録用紙を作成したい」、「臨地実習終了後に、実習に関わった教員全員が参加して学生の評価会議を行う点は参考になる」といった発言がありました。



日本の臨地実習の知見に関するプレゼンテーション

10月3日から6日にかけて実施した第2回ワークショップにおいても、引き続き、行政文書・教材の草案作成を進めました。その結果、行政文書はおおむね草案の作成を完了し、教材に関しては、単位取得要件など重要な指標の認識が関係者で異なっていたため、参加者で協議を行いました。また実習手帳については、関係者間で参照基準となる文書について協議した結果、「ECOWAS 地域におけるWAHO のカリキュラムに基づく看護師助産師育成国家研修計画」を参照基準として、実習手帳のセネガル版を作成することを確認しました。その他、看護学生向けの看護過程を含む記録用紙や、助産学生向けの症例記録については、これまでは統一された教材がなく、養成校や保健医療施設関係者によって対応が異なり、使用していない養成校もありました。ワークショップを通じて統一化へ向けた教材の草案を作成することができました。

さらに、12月7日から9日にかけて、行政文書・教材の最終確認を行うことを目的に、第3回ワークショップを実施しました。第3回ワークショップでは、臨地実習の質の改善のための協議枠組みオリエンテーションガイドや実習手帳など、主要な行政文書・教材の草案の見直し、使用する用語の統一について参加者と協議を行いました。今回のワークショップで最終化に至らなかった文書は、2023年1月の第4回の行政文書・教材の草案作成ワークショップで最終確認を行います。その後、行政文書・教材の草案最終化ワークショップ実施する予定です。

編集委員会メンバーからのコメント



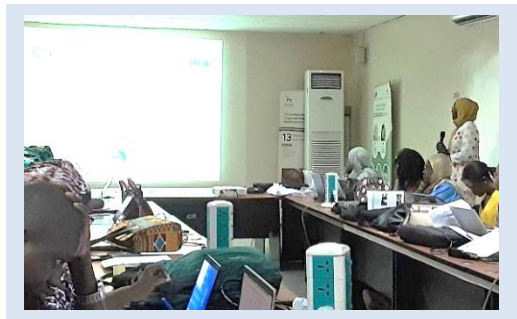
AQISプロジェクトは、公立養成校に加えて私立養成校も対象とする初めてのプロジェクトです。私立保健人材養成組合は元々公立養成校に所属していた人材が運営しているため、公立と私立は強固な連携を実現しています。AQISプロジェクトは、公立と私立両方の養成校を支援しているため、全体的に教育の質が良くなるでしょう。そうなれば、国家試験の合格率が改善されることにつながると確信しています。（アブドゥライ・ガイ/私立保健人材養成校組合代表）

行政文書・教材ワークショップは、経験豊富な参加者のもと、活発な議論が行われました。作成された行政文書や教材を使って行われるパイロットフェーズでは、関係者が意欲的に参加し、改善のための意見を出すことで、より良い行政文書や教材の作成につながると思います。（ンディ・ファイ/カオラック州保健研修センター校長）



3. ティエス州、ダカール州第2四半期調整会議への参加

8月3・4日にティエス州、8月24・25日にダカール州で行われた第2四半期調整会議に研修課職員とともに参加し、プロジェクトの概要や進捗状況、臨地実習における課題、ワークプランの内容、3年間の計画を対象州の関係者に共有しました。これにより、対象州の関係者のプロジェクトへの理解が深まりました。国レベルと州レベルの協議枠組みを確立することが重要であることが強調されました。



ティエス州調整会議にてプロジェクト概要を説明するティエス州保健研修センター校長

4. 他機関および開発パートナーとの面談

9月6日に、助産師協会およびIntraHealthのClassroom to Care (C2C) プロジェクトと臨地実習や活動連携に関する意見交換を行いました。助産師協会は、助産師の能力強化、女性や子どもに係る病気の無料相談、助産師の権利や社会的地位を向上するための活動などを目的にしています。協会からは、実習前の技術演習のための演習室の整備、実習目的や評価の統一、実習教材の統一、保健区レベルの協議枠組みの設置など、助産学生の実習について提案を受けました。

一方の米国NGOのIntraHealthのプロジェクトであるC2Cは、マリ、セネガル、ニジェールで看護師・助産師養成改善を目的に実施しており、本部のあるマリの代表のセネガル訪問を機に、プロジェクトと協議を行いました。C2Cも本プロジェクトと同様の活動を予定しているため、本プロジェクトの成果である、協議枠組みの設置や他国へのグッドプラクティスの共有などを協力しながら活動を進めていくことを確認しました。また、本プロジェクトで作成した教材を、C2Cの対象州（ティエス、カオラック、サンルイ、コルダ）でも展開していくこと、C2Cがティエス州の対象養成校の演習室に供与予定の機材を本プロジェクトでも活用することを検討するなど、今後連携を深めていくことを確認しました。

5. ダカール州保健区の養成校と保健医療施設の視察

9月1日に、養成校における実習手帳およびポートフォリオの看護助産学生の使用状況と、保健医療施設における看護師・助産師が使用している記録用紙の実態把握を目的に、サンガルカム・クーマサル保健区の保健センター、保健ポストおよび私立養成校を訪問しました。施設管理者、臨床指導者、教員と面談を通じて、思考のプロセスが可視化できる看護助産学生の実習手帳とポートフォリオ作成の重要性などについて再確認できました。



保健センターでの面談の様子
(サンガルカム保健センター)

10月25日には、臨地実習時で看護記録を積極的に活用しているプリンシパル病院の視察を行いました。視察では、看護記録の実際の利用状況、同病院での実習学生による看護記録に関する実習の有無や実習に導入する際の留意点などが聞き取りを通じて確認できました。また、同病院の看護師や実習生との意見交換では、看護記録は患者データの収集・アセスメントを通じてニーズの把握や適切な看護ケアを考えるのに役立つというポジティブなコメントが複数見られました。



看護記録に関する聞き取りの様子
(プリンシパル病院)

6. 第37回日本国際保健医療学会学術大会での発表

11月19日に、第37回日本国際保健医療学会に参加し、プロジェクト概要、2022年4～6月にかけて実施した情報収集ミッションの分析結果の発表を行いました。参加者からは、セネガルにおける看護師養成の教育システムや、定着して働くための支援について質問があり、活発な意見交換を行いました。

2023年1月～2023年6月の活動予定

- ✓ 第4回行政・教育文書の草案最終化ワークショップ
- ✓ 行政・教育文書の草案最終化ワークショップ
- ✓ パイロットフェーズの開始
- ✓ 全国・州レベルの協議の枠組み会合の実施